

モラルサイエンス研究会（令和元年 11 月 20 日）発表要旨

「神社神道における次世代教化活動の諸相 ―神道青年会の活動を事例に一―」

社会科学研究室
主任研究員 冬月 律

本報告では人口減少社会に突入した日本社会において、人口減少が引き起こす諸問題に対して、伝統宗教ではどのような対策が講じられているのかを整理し、調査事例として神社界の実践例を概観し、“現場”における次世代教化活動の成果や課題と展望などについて報告した。

実践例として取り上げた富山県神道青年会の「神社に泊まろう in 黒部」（平成 28 年）と静岡県神道青年会の「こども参宮団」（平成 4 年～）は、包括団体の神社本庁や都道府県の各神社庁による包括的な教化活動との差別化を図り、各現場に即した観点から地域の子どもの対象にして若手神職らが企画した活動であり、他の地域にも適応できる好事例であると考えられる。

一方で、これらの活動において、地域・神社間の距離、神職の奉祀形態（専業／兼業）などにおける“格差”が今後の活動展開において大きな課題となっていることも明らかとなった。今後もさらなる調査研究を行ない、神社界における次世代教化システムの持続可能性や意義等について検討していきたい。